







拾遺愚草

同上

常夏

古今冬

常夏

新撰古神祇

風雅雜下

月清集上

風雅雜下

壬生二系上

同下

古今秋下

古今秋上

同雜上

拾遺五章上

同

玉葉系

玉葉系

初くろくしき以冬舟すもはは

二ひよまの昔むすつるはあひ

ちりてれとちりてきまき

後藤のふむむとつるおと

ふらの舟すねよあひさるみ

今くはうらももさるる居るか

あひのうせは衣のそはうけく

うけうらうを乃小萩のあま

あれとくお原ははくくあは

立ちつり秋那支時の菊はれ

山吹乃花をいぬぬあちり

九重はうつろひぬも菊はれ

秋萩のうらもさるる花をい

いづの神あつりてあひさる

松風乃をよすすえん山人乃

ふゆらみみふらつるあちり

うらみとあまのいぬもすれ

大貳三位

指中絶言

永福門院

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

大貳三位

後拾秋下

月みては秋の月とては... 秋の月とては... 秋の月とては...

新千集上

かきむねの月とては... 秋の月とては... 秋の月とては...

新葉集下

君の心とては... 秋の月とては... 秋の月とては...

玉葉尺教

いづれに... 秋の月とては... 秋の月とては...

新後拾秋下

後拾秋下... 秋の月とては... 秋の月とては...

新後拾秋上

世の... 秋の月とては... 秋の月とては...

後拾遺哀傷

よき... 秋の月とては... 秋の月とては...

後千集上

何事... 秋の月とては... 秋の月とては...

新葉尺教

ある... 秋の月とては... 秋の月とては...

新古今集

や... 秋の月とては... 秋の月とては...

古今集上

後... 秋の月とては... 秋の月とては...

後撰志又

夕... 秋の月とては... 秋の月とては...

大和物語

ゆ... 秋の月とては... 秋の月とては...

新千尺教

今... 秋の月とては... 秋の月とては...

後拾遺秋上

う... 秋の月とては... 秋の月とては...

新千秋上

西... 秋の月とては... 秋の月とては...

壬生三不中

ゆ... 秋の月とては... 秋の月とては...

後拾遺秋上

ま... 秋の月とては... 秋の月とては...

後拾遺秋上

み... 秋の月とては... 秋の月とては...

新勅秋上

さ... 秋の月とては... 秋の月とては...

壬生三不上

秋... 秋の月とては... 秋の月とては...

月清集上

さ... 秋の月とては... 秋の月とては...

新後拾秋上

文... 秋の月とては... 秋の月とては...

玉葉秋上

置... 秋の月とては... 秋の月とては...

新古今集上

白... 秋の月とては... 秋の月とては...

後拾尺教

ゆ... 秋の月とては... 秋の月とては...

新古今又

ま... 秋の月とては... 秋の月とては...

拾玉集四

ね... 秋の月とては... 秋の月とては...

同七

下... 秋の月とては... 秋の月とては...

山家集上

つ... 秋の月とては... 秋の月とては...

拾玉集七

よ... 秋の月とては... 秋の月とては...

新千尺教

今... 秋の月とては... 秋の月とては...

同

吹... 秋の月とては... 秋の月とては...

同雜上

老... 秋の月とては... 秋の月とては...

新後拾秋上

ま... 秋の月とては... 秋の月とては...

壬生三不下

う... 秋の月とては... 秋の月とては...

類聚

類聚

類聚

後千尺教

雪のふりまはるるの初雪の

後古尺教

法のま今もつるまはるる

新後拾遺教

法のま今もつるまはるる

新勅尺教

法のま今もつるまはるる

後拾遺教

法のま今もつるまはるる

拾遺集七

此のま今もつるまはるる

山家集上

此のま今もつるまはるる

同下

此のま今もつるまはるる

新千五尺

此のま今もつるまはるる

新勅尺教

此のま今もつるまはるる

金葉集下

此のま今もつるまはるる

月清集上

此のま今もつるまはるる

後千五尺

此のま今もつるまはるる

壬生二系中

此のま今もつるまはるる

金葉集上

此のま今もつるまはるる

新後秋下

此のま今もつるまはるる

後撰撰冬

冬のま今もつるまはるる

後拾冬

冬のま今もつるまはるる

後拾冬

冬のま今もつるまはるる

壬生二系上

冬のま今もつるまはるる

後撰撰春

春のま今もつるまはるる

拾遺集上

春のま今もつるまはるる

後撰撰二

春のま今もつるまはるる

後拾遺下

春のま今もつるまはるる

拾遺集上

春のま今もつるまはるる

後撰撰一

春のま今もつるまはるる

新古尺

春のま今もつるまはるる

拾遺集上

春のま今もつるまはるる

月清集上

春のま今もつるまはるる

壬生二系中

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる

同上

春のま今もつるまはるる



新拾尺教

是の海いづこまで思ふ月詠

あまのうらな

後二徳

新勅巻一

うらまひあつる後のしづま

あまのうらな

段富

拾遺集下

あまのうらな

あまのうらな

大止入

新拾尺教

心とあまのうらな

あまのうらな

前持信

風雅雜中

心とあまのうらな

あまのうらな

前持信

玉葉雜一

心とあまのうらな

あまのうらな

静仁法

金葉雜上

草のうらな

あまのうらな

普光園

拾玉集七

三笠山の時

あまのうらな

僧

新拾巻一

つ井よき

あまのうらな

常元法師

千載冬

海とあまのうらな

あまのうらな

皇太后

同

本葉らう

あまのうらな

後成

新千秋下

暁乃祿

あまのうらな

法

千載冬

暁乃祿

あまのうらな

紀康宗

新拾巻一

かくと

あまのうらな

聖

新葉巻一

あまのうらな

あまのうらな

あまのうらな

新勅巻一

年とあまのうらな

あまのうらな

右近大

新勅巻一

我とあまのうらな

あまのうらな

信

新勅巻一

下よの

あまのうらな

中

新葉巻一

洞川神の

あまのうらな

源

月清集上

むの

あまのうらな

式

新勅尺教

霞の

あまのうらな

同

同

任

あまのうらな

同

新古巻一

下

あまのうらな

大

新古巻一

下

あまのうらな

下

新葉巻一

う

あまのうらな

道

拾遺集下

法

あまのうらな

西

千我巻一

岩

あまのうらな

源

拾遺集上

あ

あまのうらな

波

千我秋上

あ

あまのうらな

源

拾遺集下

あ

あまのうらな

源

新古巻一

あ

あまのうらな

源

古今物名

あ

あまのうらな

源

金葉巻上

あ

あまのうらな

源

拾玉集五

あ

あまのうらな

源

類古集

類古集

類古集



山家集下

玉葉卷一

風雅雜下

玉葉卷三

山家集下

古今物名

拾玉集一

新後衣

後拾卷二

新古卷二

玉葉卷二

玲玉

風雅卷二

新千卷二

同上

風雅雜下

新千雜下

拾玉集四

山あつてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

きりてはしらさききりては

長秋詠藻下

きりてはしらさききりては

同二

きりてはしらさききりては

拾玉集二

きりてはしらさききりては

拾遺卷中

きりてはしらさききりては

新古雜下

きりてはしらさききりては

拾遺雜下

きりてはしらさききりては

拾玉集二

陰多み 雜の草

同七

昔ねりよりの鳴き此よもを

拾玉集四

あまのつとくもあまのつとく

同

あまのつとくもあまのつとく

長秋詠集

あまのつとくもあまのつとく

後古雜上

あまのつとくもあまのつとく

後古雜中

あまのつとくもあまのつとく

後古雜下

あまのつとくもあまのつとく

古今志一

あまのつとくもあまのつとく

拾遺志二

あまのつとくもあまのつとく

拾遺志三

あまのつとくもあまのつとく

古今志二

あまのつとくもあまのつとく

新玉集一

あまのつとくもあまのつとく

河花志上

あまのつとくもあまのつとく

河花志下

あまのつとくもあまのつとく

拾遺志四

あまのつとくもあまのつとく

新千秋上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新大徳寺

新千秋下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新大徳寺

山家集上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

山家集

山家集下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

山家集

拾遺集上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

拾遺集

拾遺集下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

拾遺集

後撰秋中

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

後撰秋中

後撰秋下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

後撰秋下

月清集上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

月清集

月清集下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

月清集

拾遺志一

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

拾遺志

古今秋上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

古今秋

古今秋下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

古今秋

新古今上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新古今

新古今下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新古今

新古今上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新古今

新古今下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新古今

新古今上

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新古今

新古今下

あまのつとくもあまのつとく

あまのつとくもあまのつとく

新古今

拾玉集四

後拾遺冬

新千友

山家集上

新勅雜一

後千雅上

新撰百愛

大和拾遺

古今忘四

千載忘四

古今秋上

後千秋下

壬生二下

夢

月清集下

後拾遺冬

後千雅上

拾玉集一

風雅忘一

新勅忘四

後千忘二

拾玉集三

大くううううあせ

冬の雪はいつたわりぬき

あきうまのへいさきうう

大くうううううううう

後千雅上

大和拾遺

古今忘四

千載忘四

古今秋上

後千秋下

壬生二下

夢

月清集下

後拾遺冬

後千雅上

拾玉集一

風雅忘一

新勅忘四

後千忘二

拾玉集三

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

おれは常行秋は夕れ

類古本

加

加

加

加

拾遺集三

松風のふりそよ

あはれいひのちかき

堀河の御

後拾遺集秋

ゆきとちかき秋とちかき

あはれいひのちかき

覚助法親

拾遺集草上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

後撰秋下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

玉葉集三

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

後拾遺集下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新古今一

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

同志又

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

後拾遺集上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾遺集下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

後撰夏

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新古今下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

千載羈旅

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾玉集七

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新撰一

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

月清集上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾玉集二

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

生二下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾遺集一

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

玉葉集四

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾遺集上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

玉葉集三

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾玉集一

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

後撰夏又

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新撰古今冬

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

同友

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

長秋詠藻上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

山家集下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新撰拾遺上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新撰拾遺中

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

拾遺集草中

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新撰拾遺下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新撰拾遺下

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

新古今春上

あはれいひのちかき

あはれいひのちかき

右と

壬生二下 くらや中のみ  
 新撰拾遺上 水邊の水はゆるり  
 新撰拾遺一 春の風は香の下草をまよ  
 千載書上 春の風は香の下草をまよ  
 後撰撰名三 春の風は香の下草をまよ  
 新千恋一 春の風は香の下草をまよ  
 壬生二下 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺多草上 春の風は香の下草をまよ  
 後千恋二 春の風は香の下草をまよ  
 風雅雜上 春の風は香の下草をまよ  
 新千恋 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺多草 春の風は香の下草をまよ  
 同上 春の風は香の下草をまよ  
 後千恋一 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺多草 春の風は香の下草をまよ  
 古今多草 春の風は香の下草をまよ  
 壬生二下 春の風は香の下草をまよ  
 同 春の風は香の下草をまよ

後撰撰名四 春の風は香の下草をまよ  
 新撰拾遺春 春の風は香の下草をまよ  
 風雅雜下 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺多草下 春の風は香の下草をまよ  
 新撰古意四 春の風は香の下草をまよ  
 新撰古意傷 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺集三 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺貞正 春の風は香の下草をまよ  
 新千恋二 春の風は香の下草をまよ  
 後撰撰名中 春の風は香の下草をまよ  
 拾遺撰名 春の風は香の下草をまよ  
 壬生二下上 春の風は香の下草をまよ  
 後古意二 春の風は香の下草をまよ  
 壬生二下下 春の風は香の下草をまよ  
 後撰撰名中 春の風は香の下草をまよ  
 新古意上 春の風は香の下草をまよ  
 新撰撰名上 春の風は香の下草をまよ  
 風雅友 春の風は香の下草をまよ

後拾遺集上 かしこり日影を  
 後千載上 山を登りてみれば  
 月清集上 うねりてみれば  
 後千載二 山は秋の煙草  
 秋後集 涼やと河世の涼  
 拾遺集一 涼やと河世の涼  
 秋子二 涼やと河世の涼  
 拾遺集一 涼やと河世の涼  
 後拾遺集一 涼やと河世の涼  
 玉葉集四 涼やと河世の涼  
 秋後集 涼やと河世の涼  
 同集上 涼やと河世の涼  
 新千冬 涼やと河世の涼  
 拾遺冬 涼やと河世の涼  
 拾遺集上 涼やと河世の涼  
 古今秋下 涼やと河世の涼  
 秋勅冬 涼やと河世の涼  
 同集四 涼やと河世の涼

新拾冬 何より時を  
 秋拾秋下 秋の心乃  
 拾遺集二 秋の心乃  
 後撰秋下 秋の心乃  
 拾遺集上 秋の心乃  
 土生二 秋の心乃  
 拾遺集上 秋の心乃  
 土生二 秋の心乃  
 同上 秋の心乃  
 後撰離別 秋の心乃  
 玉葉秋下 秋の心乃  
 秋勅秋下 秋の心乃  
 同集上 秋の心乃

類例七

廿二

古今類聚 五回まつりつゝのい はまらるる金糸  
拾遺集十 ともあつたのうらさきまらつと  
新古今冬 山室いなるもふえを成ゆへ  
玉葉冬 いつゝとみけりていふさうつ  
拾玉集四 秋のたふさくつくそま田山  
千載秋下 ねらふまのまきまきまき  
同雅冬 草枯せばゆのうらまをのあ  
拾玉集六 りつとみま麻くまののあ秋  
玉葉冬四 昔のまの記つらうらまを  
山家集上 善悪あ秋のまのまを  
拾玉集四 久くみ木のまのまのまのま  
拾遺集草上 ともあつたのうらさきまらつと  
後撰雜四 ちとあつたのうらさきまらつと  
後千冬 ちとあつたのうらさきまらつと  
後古秋下 ちとあつたのうらさきまらつと  
新後秋下 ちとあつたのうらさきまらつと  
後撰撰秋 條のあつたのうらさきまらつと

玉葉秋上 まつたつたのうらさきまらつと  
拾遺集草上 ちとあつたのうらさきまらつと  
後撰撰秋下 ちとあつたのうらさきまらつと  
拾遺集上 つねらふもつたのうらさきまらつと  
乙女 心うらまのまのまのまのま  
拾遺集草上 林あまの秋のまのまのま  
山家集上 木のまのまのまのまのま  
新勅秋下 ちとあつたのうらさきまらつと  
同冬 水のまのまのまのまのま  
新裕冬 水上のまのまのまのまのま  
千載秋下 さあやひのまのまのまのま  
拾遺集外上 ちとあつたのうらさきまらつと  
千載冬 ちとあつたのうらさきまらつと  
新後秋下 ちとあつたのうらさきまらつと  
後千秋下 ちとあつたのうらさきまらつと  
金葉秋 ちとあつたのうらさきまらつと  
長秋録傳 ちとあつたのうらさきまらつと  
後古秋下 ちとあつたのうらさきまらつと

新撰秋上

中くは思ひもいほむ秋の

みちよりのさよふ

葉山典侍

後撰秋下

みづくふ秋もたうかき

みちよりのさよふ

よる人あふ

玉葉秋下

秋深き八つうら川の

みちよりのさよふ

順徳院の御

山家集下

衣ともむみ一かき

みちよりのさよふ

順徳院の御

同上

ときよれつたの

みちよりのさよふ

順徳院の御

新撰秋上

あひみおむあき

みちよりのさよふ

順徳院の御

千載秋下

善て秋もたうかき

みちよりのさよふ

順徳院の御

後撰秋下

水うりや善て秋も

みちよりのさよふ

順徳院の御

拾玉集二

あつと山つら思そ

みちよりのさよふ

順徳院の御

後衣四

神うきま秋の

みちよりのさよふ

順徳院の御

金葉冬

山河の秋もたうかき

みちよりのさよふ

順徳院の御

山家集上

わつ後秋の

みちよりのさよふ

順徳院の御

拾遺集上

年をとてうき

みちよりのさよふ

順徳院の御

拾遺集下

水れあもに秋も

みちよりのさよふ

順徳院の御

後撰冬

後ささるれ

みちよりのさよふ

順徳院の御

後撰冬

大井河風の

みちよりのさよふ

順徳院の御

新撰秋中

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

壬生二系中

天何程も

みちよりのさよふ

順徳院の御

拾玉集一

七夕のけさの

みちよりのさよふ

順徳院の御

強古志四

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

新撰秋上

初合れ

みちよりのさよふ

順徳院の御

新撰秋上

天何程も

みちよりのさよふ

順徳院の御

千載秋下

君さむとら

みちよりのさよふ

順徳院の御

新撰秋下

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

壬生二系中

本りし

みちよりのさよふ

順徳院の御

拾遺秋

秋雲

みちよりのさよふ

順徳院の御

古今齋様

けいひぬ

みちよりのさよふ

順徳院の御

後撰秋下

秋雲

みちよりのさよふ

順徳院の御

拾遺秋

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

同撰秋

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

同撰秋

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

千載秋下

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

壬生二系中

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

山家集上

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御

玉葉秋

あまれ川

みちよりのさよふ

順徳院の御



秋後秋下

秋田原のあけの秋の夜を

紅葉のあけのあけの山風

徳の清

月清集上

秋風乃らるる山よりあけの

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

拾遺集上

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

同冬

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋千秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

拾玉集四

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

同

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

拾玉集七

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

風雅秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

壬生三平中

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋古冬

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

秋後秋下

秋のあけのあけの山風

紅葉のあけのあけの山風

法眼慶融

返撰秋下 是夜此山のてまのりかゆり  
 古今秋上 久く此月のうらも秋をさ  
 頃磨 うちめくふいそはれあまはるれ  
 新千恋三 とうれきうれはふなひきも  
 古今雜下 わらわらふ人あふはるの情は  
 拾遺貞正 きほのうら秋の情は風は誰を  
 若菜下 ちかひせきよまきまきまき  
 新拾遺三 人とくまの思ひこひいさ  
 拾遺雜春 たのの情はあはれけりあふ  
 新拾遺二 和四津海のものともあふね  
 新拾遺上 ふれはれらうものもあふの情  
 壬生二系下 夕光うらふ衣あふさう  
 新拾遺三 ちかひせきよまきまきまき  
 同雜春 田苗うら四まは情いこころや  
 壬生二系上 ちかひせきよまきまきまき  
 同中 衣あふもあ本の梅そむける  
 玉葉系四 ちかひせきよまきまきまき  
 同雜系一 ちかひせきよまきまきまき

拾遺選書 みるまてちりくる物とあはれ  
 拾遺集一 あふ年ゆらうせのねの情は  
 玉葉系賀 月とくまの思ひこひいさ  
 新拾遺系 ちかひせきよまきまきまき  
 新拾遺賀 ちかひせきよまきまきまき  
 千載系二 ちかひせきよまきまきまき  
 新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき  
 新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき  
 新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき

新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき  
 新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき  
 新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき  
 新千恋三 ちかひせきよまきまきまき  
 風雅雜下 ちかひせきよまきまきまき

Handwritten text in a rectangular frame, oriented vertically. The text is written in a cursive script and appears to be a list or a series of entries. The paper is heavily damaged, with significant staining and tearing, particularly along the left edge and bottom. The text is difficult to decipher due to the damage and the cursive nature of the handwriting.

